

令和6年度

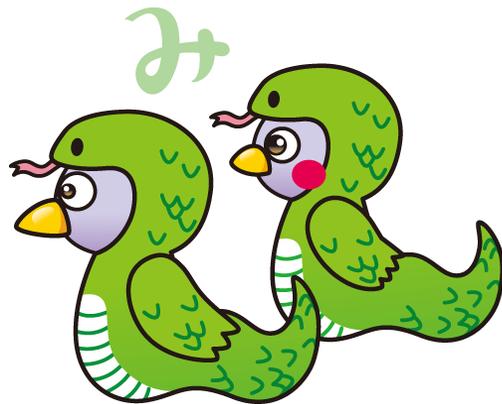
東部地区学力向上推進協議会

未来を創る、こどもたち。

未来を育てる、わたしたち。

～未来への責任～

児童生徒一人一人の 確かな学力の育成に向けて



令和7年1月24日（金）
県教育局市町村支援部義務教育指導課
学力向上推進・学力調査担当

本日のアウトライン



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」

情報提供

- 1 埼玉県学力・学習状況調査の結果
- 2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

情報提供

1

令和6年度埼玉県学力・学習状況調査の結果

1 令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果

学力のレベルの経年変化から（令和元年度から令和6年度の6年間）

○多くの学年・教科で、学年が上がるごとに、学力が伸びている。

○一方で、学力の伸びが小さい、または横ばいの教科や学年もある。

国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	15	18	20	22	23	25
現中2	17	18	21	22	22	
現中1	18	18	20	21		
現小6	16	19	19			
現小5	16	17				
現小4	14					

横に見ることで、
同一の集団の学力
の推移が分かる

 ⇒ 今年度の数値

算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	14	16	19	20	22	22
現中2	14	17	18	19	21	
現中1	15	16	17	17		
現小6	14	16	17			
現小5	13	14				
現小4	12					

 ⇒ 今年度の数値

英語

学年	中2	中3
現中3	25	28
現中2	25	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

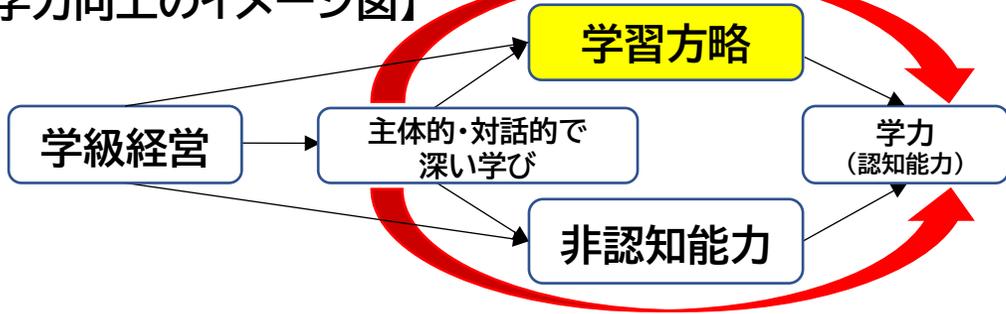
 ⇒ 今年度の数値

※小4～中3で「学力のレベル」は、36段階で設定している。

※表の数字は各学年の「学力のレベルの平均値」を表している。

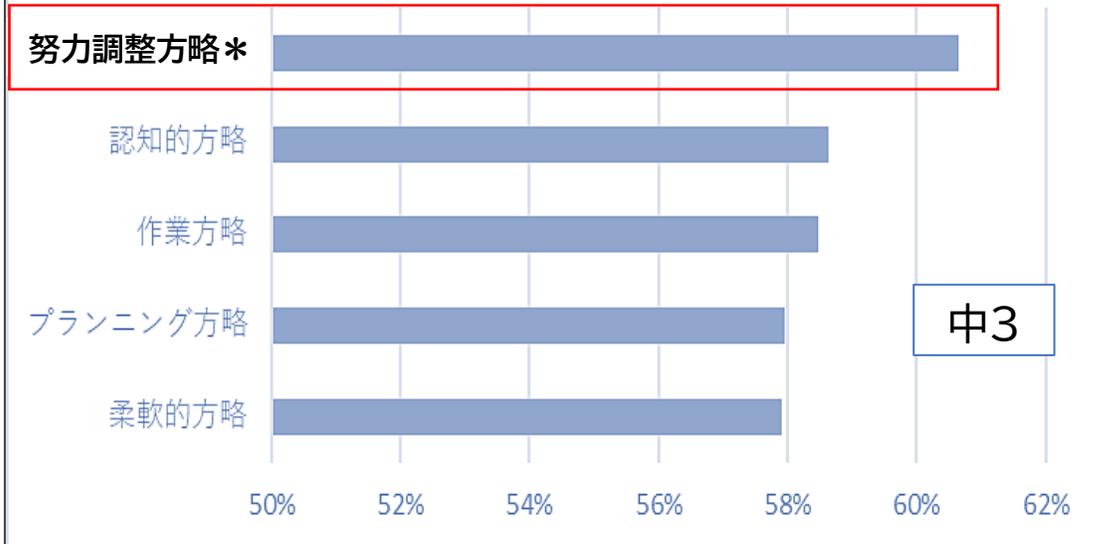
1 令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果

【学力向上のイメージ図】



「苦手」などの感情をコントロールして学習へ向き合おうとする意識(努力調整方略)

○努力調整方略は全ての学年・教科で学力の伸びと相関が大きい



※学習方略を伸ばした生徒が学力を伸ばした割合

努力調整方略の「**伸び**」× 学力の「**伸び**」

努力調整方略を伸ばすための取組例

振り返りの充実

できるようになってきたね。
次は何を頑張ろうかな。

苦手だけど
あきらめないぞ！



活動への取組を振り返ろう

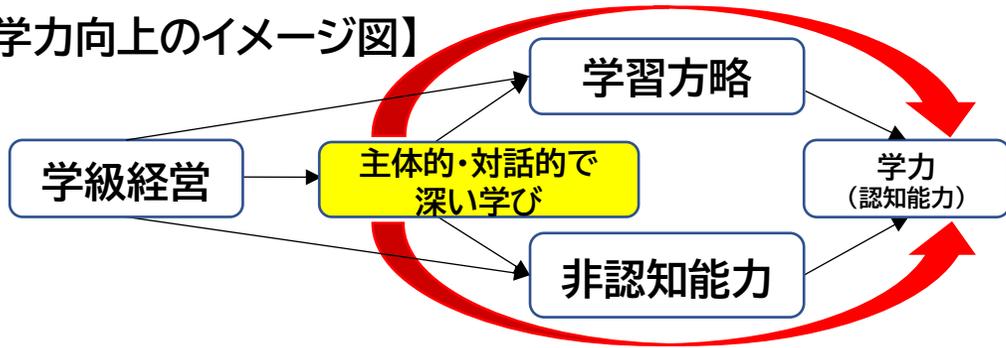
- 自分にとって大切なものが伝えられましたか。
- 相手が理解しやすいように使う表現を工夫しましたか。

Good!

メモばかり見せてしまって、あまり相手のことを見ながら話すことができなかった。次は相手を見ることを考えたい。

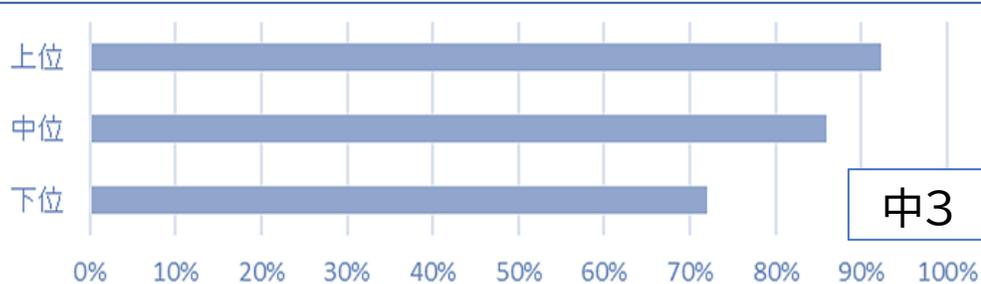
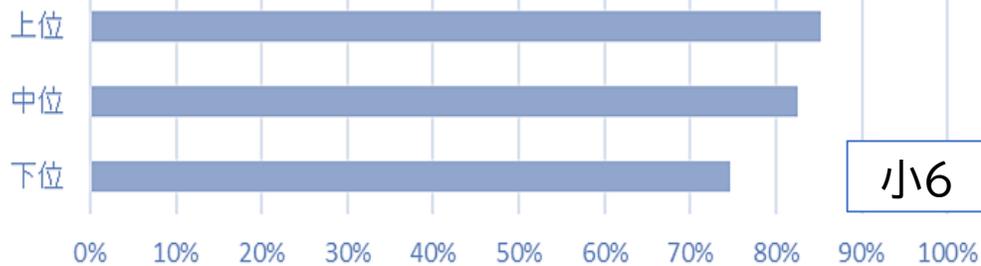
1 令和6年度 埼玉県学力・学習状況調査の結果

【学力向上のイメージ図】



これまでに学んできた一つ一つの知識をつなげ深く理解したり、新たな考えを形成したりする学び等(深い学び)

○以前に学習した知識とのつながりを認識したことがある児童生徒ほど学力が高い



(「授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったことがどれくらいありましたか」という質問に対して「よくあった」「ときどきあった」と回答した割合)

以前に学習した知識とのつながり × 学力

深い学びを促すための取組例

前回の授業で学んだことを使って考えてみよう。

学んだことを使った話合い



あの考えを使えば、この問題ができそうだ!

前回の授業で学んだことはここにつながるのか!



令和5年度埼玉県学力・学習状況調査報告書

〔令和5年5月実施〕

～子供たち一人一人のよさを伸ばし、よさを活かす～

令和6年1月
埼玉県教育委員会

【令和5年度埼玉県学力・学習状況調査報告書】

- 第1章 調査の概要
- 第2章 調査結果の概要
- 第3章 調査結果の活用
- 第4章 特徴的な取組の紹介
- 第5章 学習指導のポイント
- 第6章 質問調査結果から見られる傾向
- 第7章 その他

令和6年度版も現在作成中

情報提供

2

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた

授業改善

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査〉

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査は、教員と児童生徒が**授業の振り返り**を行うための質問調査です。普段の授業を踏まえて、教員と児童生徒がそれぞれ質問調査を行い、結果をもとに、主・対・深の視点から見つけた**授業の良さを共有**したり、改善する点やその改善方法を検討したりするきっかけとすることができます。

質問調査用資料の内容

- ①児童生徒用質問調査
- ②教員用質問調査
- ③調査結果集計表
- ④活用にあたって(本シート)



実施・集計は
アプリ活用もおすすめ!

学校	児童生徒用質問調査	年	期
学年・学期・教科を記入してください。			
以下の項目について、各項目の1～5段階で評価してください。			
①	②	③	④
よくあった	ある程度あった	どちらでもない	あまりなかった
⑤	⑥	⑦	⑧
全くなかった	ほとんどなかった	ほとんどあった	全くあった
質問項目		評価	
1	授業の目的、内容が子どもに理解できるような工夫がなされていること		
2	授業の進め方は、授業で学んだこととつながりがあり、面白かったことか、わかるようになったことかを感じたこと		
3	わかるようになった経験、学びの過程が理解されたこと		
4	グループやペアで、話し合ったが、質問や考えを出し合ったりして学びを深めたこと		
5	授業が終わった後で、思いがけず覚えたことか、自分の考え、学びが深まったことかを感じたこと		
6	新しい知識や経験から、自分の考えや行動が変わり、深まったことかを感じたこと		
7	授業を通して、学校の生活について、さらに深く知ることができたことかを感じたこと		
8	授業で学んだことが、1週間以上経った後も思い出されたこと		
9	授業で学んだことが、学習の生活に活かされたこと		

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査集計表		調査実施校数		調査実施児童生徒数	
項目	評価	実施校数	実施児童生徒数	実施校数	実施児童生徒数
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
集計結果		集計結果		集計結果	

教義指第594号
令和6年9月24日

各市町村教育委員会教育長
県立伊奈学園中学校校長
県立総合教育センター所長
各教育事務所長

埼玉県教育委員会教育長
(公印省略)

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用について(依頼)

標記の件につきまして、資料を下記のとおりホームページへ掲載しましたので、研修等で積極的に御活用くださるようお願いいたします。

なお、市町村教育委員会におかれましては、貴管下の小・中学校等の管理職に対し、周知していただくとともに、各種研修等での活用について御指導願います。

記

- 1 掲載資料
 - (1)活用リーフレット(PDF形式)
(「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用にあたって)
 - (2)児童生徒用 質問調査用紙(Word形式)
 - (3)教員用 質問調査用紙(Word形式)
 - (4)質問調査集計用紙(Excel形式)

2 掲載先等
掲載資料を総合教育センターのホームページからダウンロードできます。下記URLにアクセスしてください。(QRコードも適宜御活用ください)
詳細につきましては、別紙を御確認ください。

<URL> <https://csweb.center.spec.ed.jp/gimushi/>
※ログインIDやパスワードは不要です。



担当 市町村支援部義務教育指導課
学力向上推進・学力調査担当 田中・古畑
電話 048-830-6779
メール tanaka.hayo@pref.saitama.lg.jp



質問項目は「主・対・深」に関わりの深いものを9項目、県学調の質問調査から専門家(教授等)が選定しました。学年・教科に関わらず調査を行うことができます。

令和6年9月24日付け
教義指第594号
「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査の活用について(依頼)

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査〉

教員用質問調査	
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること

主に
主体的
な学び

主に
対話的
な学び

主に
深い学
び

児童生徒用質問調査	
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと

5段階で回答

5 よくあった

4 ときどきあった

3 どちらとも

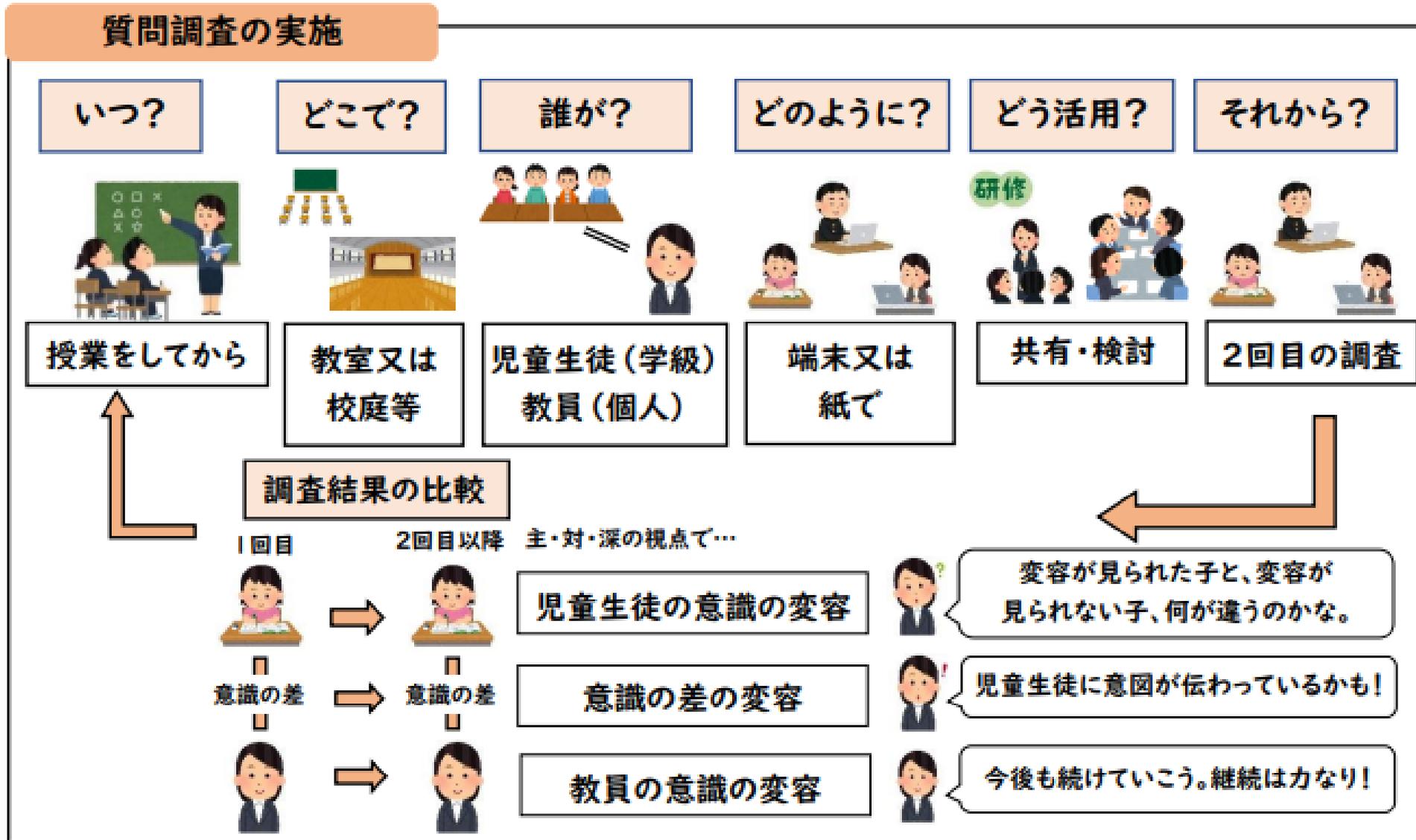
いえない

2 あまりなかった

1 ほとんど、または
全くなかった

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査〉



○教員も児童生徒も高評価の項目
→校内等で共有を!

○教員も児童生徒も低評価の項目
○教員と児童生徒の振り返りに差がある項目
→授業改善のチャンス!

○児童生徒間での差がある項目
→個々の状況に着目

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

項目 番号	調査実施学年・組等		小学校●年●組				調査実施学年・組等	
	教科		6月		12月		教科	
	実施年月		児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	実施年月	
	児童生徒 調査項目	児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	教員 調査項目		
1	授業の始めに、今日はどうな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	4.00	2	4.72	5	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと		
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	4.28	2	4.72	5	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと		
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	4.52	2	4.68	4	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと		
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	4.68	4	4.68	5	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。		
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	4.48	4	4.76	5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと		
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	4.68	4	4.68	5	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと		
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	4.28	4	4.28	4	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと		
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	4.48	4	4.72	5	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと		
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	4.40	2	4.76	4	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと		
10			2		5	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

項目 番号	調査実施学年・組等		中学校●年●組				調査実施学年・組等	
	教科		6月		12月		教科	
	実施年月		児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	実施年月	
	児童生徒 調査項目	児童 生徒	教員	児童 生徒	教員	教員 調査項目		
1	授業の始めに、今日はどうな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと	3.03	5	3.94	5	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと		
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと	3.94	4	4.53	5	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと		
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気の中で授業が行われたこと	4.09	4	4.17	4	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと		
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと	4.46	5	4.61	5	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。		
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと	4.06	4	4.31	4	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと		
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと	3.77	5	4.31	5	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと		
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと	3.17	4	3.94	5	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと		
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと	4.14	4	4.42	5	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと		
9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと	3.34	5	3.97	5	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと		
10			4		4	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査を活用した取組〉

授業改善の取組

○若手教員に対して実施

→主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点が明確になる。

- ・低い項目について、ベテラン教員の授業参観や自身の授業を改善
- ・意識した項目に沿って指導者が見取り、指導助言

○全ての学級、教員で実施

→結果から学校や学年の傾向を見だし、授業改善に向けた取組の検討を行う。

- ・低い項目について引き上げる方策
- ・児童生徒の実態把握と、教員の指導とのズレの改善
- ・高い項目について効果的な取組の共有

→児童生徒一人一人の結果にも焦点を当て、細かな指導につなげる。

○研究授業の前後で実施

→実態や手だてを指導案に記載、手だての検討と効果の検証を行う。

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査を活用した取組〉

実施時期、回数

- 学期ごとに実施
- 6月と2月に実施
- 单元ごとに実施



複数回実施し、変容を確認
取組の検証・さらなる改善へ

方法等

- フォームで実施することで、短い時間での調査を実施。集計や複数回の実施も容易になる。
- これまで市町村や学校で実施しているアンケートに、本調査項目を追加して実施。
調査に対する負担を軽減する。
- 2回目以降は、意識した項目について実施。取組を検証。

**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
児童生徒の実感をもとにした授業づくり**

- 単元ごとに育成したい資質・能力を明確にした上で、学習課題を工夫し、全ての児童生徒が学習課題の解決に挑戦できる授業

< 学習課題設定の工夫例 >

「 $13 - 9$ の答えを求めましょう。」と単に引き算の答えを求めるのではなく、「 $13 - 9$ のような計算は、どのように考えたら答えが出るか考えよう。」と投げかけ、**答えに至るまでの多種多様な考え方を学ぶ**ことで、桁が大きな引き算や一問一答ではない、文章問題でも答えを求めることができるような考える力を育成する。



< 授業形態の工夫例 >

県学調の結果を分析し、児童生徒個々の学力・学習方略・非認知能力を把握した上で教員が意図的にグループやペアを設定する。様々な学力層の児童生徒のグループを設定した場合、**中・上位層の児童生徒は下位層の児童生徒に説明をすることで学習内容を再確認したり、下位層の児童生徒は解決方法を模倣したりすることで、学習課題の解決につながる。**



- 「自分が学んで身に付いたこと」「自身の変容」について児童生徒が自分の言葉で振り返る

<小学校書写における授業(例)>

試書と比べて良くなった点から、学習で身に付いたことや今後に生かすことなどについて考えられるようにする。



<児童の振り返り(例)>

「はじめて書いた字と今日書いた字をくらべました。『おれ』や『はね』の方向に気をつけて書くとよく書けるとわかりました。ノートや手紙を書く時にも、『おれ』や『はね』に気をつけて書いていきたいです。」



学習したことの目的や意味を自分事として捉え、次の学習へつなげたり、日常生活に生かしたりすることができるようにする。

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

「主体的・対話的で深い学び」の視点による質問調査

それぞれの項目について、⑤～①で回答する。(⑤よくあった ④ときどきあった ③どちらともいえない ②あまりなかった ①ほとんど、またはまったくなかった)

番号	教員用質問調査	番号	児童生徒用質問調査
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと	1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと	2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくられるように工夫したこと	3	わからないことなど質問しやすいふん囲気で授業が行われたこと
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと。	4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと	5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと	6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと	7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと	8	授業で学んだことが、以前に学習した知識とつながったこと
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと	9	授業で学んだことを、日常生活に生かせると感じたこと
10	子供が教師の指示に従って受身的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること		

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善

〈「主体的・対話的で深い学びの視点」による質問調査〉

研修資料サイトに掲載されている資料

児童生徒用・教師用質問紙（word形式）

学校 児童生徒質問調査				
★学校名・学年・組・教科を記入してからはじめましょう。				
下の10項目について、今年の()の授業を思い出して、最も当てはまるものを①～⑤の中から一つ選んでください。				
①	②	③	④	⑤
よくあった	ときどきあった	どちらともいえない	あまりなかった	ほとんど、または全くなかった
質問項目				回答
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと			
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと			
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気や授業が行われたこと			
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと			
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと			
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと			
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと			
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識となつたこと			
9	授業で学んだことが、日常生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと			
10	授業で学んだことを、日常の生活に生かせると感じたこと			

学校 教員質問調査					
★教科ごと、学級ごとに回答してください。					
それぞれの質問項目について、次の①～⑤から最も当てはまるものを回答してください。					
①	②	③	④	⑤	
よくあった	ときどきあった	どちらともいえない	あまりなかった	ほとんど、または全くなかった	
質問項目					回答
1	子供の実態を把握した上で、子供が主体的に学べるような課題設定や授業展開、それらを踏まえた教材研究や授業づくりを意識したこと				
2	授業の終わりに、子供たちが振り返る場面を設定したこと				
3	わからないことなどを質問しやすい雰囲気がつくれるように工夫したこと				
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決する場面を設定したこと				
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりすることで、子供たちが自分の考えをしっかりと持てるように工夫したこと				
6	対話等を通じて、多様な情報や考えを収集させたり、自分にはない異なる考えの良さに気付かせたりしたこと				
7	授業を通して学習した内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思うような工夫をしたこと				
8	学びの系統性を意識して、授業中の子供に対する声掛けなどを工夫したこと				
9	授業で学んだことが生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと				
10	子供が教師の指示に従って受動的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること				

質問紙集計表（excel形式）

学校		※2回以上調査を実施する場合は、別を増やしてください。												
項目	調査実施学年・組等	児童生徒					教員							
		児童生徒	児童生徒	児童生徒	児童生徒	児童生徒	教員	教員	教員	教員	教員			
1	授業の始めに、今日はどんな学習をするのかをつかんでから学習に取り組んだこと													
2	授業の終わりに、授業で学んだことをふり返り、自分がわかったことやわからなかったことを自覚したこと													
3	わからないことなど質問しやすい雰囲気や授業が行われたこと													
4	グループやペアで、話し合ったり、意見や考えを出し合ったりして課題を解決したこと													
5	課題の解決に向けて、話し合ったり交流したりしたことで、自分の考えをしっかりと持てるようになったこと													
6	話し合いや集めた資料から、自分の考え方が変わったり、深まったりしたこと													
7	授業を通して学んだ内容について、さらにくわしく知りたい、学びたいと思ったこと													
8	授業で学んだことが、以前に学習した知識となつたこと													
9	授業で学んだことが、日常生活のどの場面につながるかを意識して授業をしたこと													
10	子供が教師の指示に従って受動的に学ぶのではなく、子供が学びたい、話し合いたいという思いを持って学習に取り組んでいるか、授業中に見取って、把握していること													
振り返り														

行を増やして
3回目・4回目
も実施可能

振り返りを記入
して改善を
確かめる



アンケート機能のあるアプリを使えばすぐに集計できそう！



義務教育指導課 研修用資料サイト

https://ecsweb.center.spec.ed.jp/gimushi/page_20240411093409

同じフォーマットで実施すれば
他校との合同研修もできそう！



【御案内】 アクションリサーチ成果報告会

- 1 開催日時 令和7年2月5日(水)
 - 【第1部】 13:30～14:25 (受付13:15～)
 - 【第2部】 14:45～16:30 (受付14:30～)
- 2 開催方法 オンライン (Microsoft Teams ウェビナー)
- 3 参加対象
 - 【第1部】 県内小・中学校等校長、教頭、主幹教諭
各市町村教育委員会指導主事 等
 - 【第2部】 県内小・中学校等教員
第1部の対象者

4 内容

【第1部】

「管理職が研修プログラムを活用することで、どのように教員の指導が改善し、児童生徒の学習状況が変容していくかを見取る手法」による取組

時間	内容	講師・指導者・担当者等
13:15	受付	
13:30	開会行事	挨拶：義務教育指導課 教育指導幹
13:35	事業概要説明	
13:40	シンポジウム「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した、管理職による教職員への指導について	青山学院大学 教授 益川 弘如 氏 対象管理職
14:20	閉会行事	

【第2部】

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善や指導意識の変化に伴う、児童生徒の学習方略等の変容を見取る手法」

時間	内容	講師・指導者・担当者等
14:30	受付	
14:45	開会行事	
14:50	事業概要説明	
14:55	対象教員によるアクションリサーチの振り返り	アクションリサーチ対象教員
15:25	アクションリサーチの取組について ・対象教員の変容 ・主体的・対話的で深い学びの授業等	埼玉大学 准教授 本橋 幸康 氏 (国語) 教授 二宮 裕之 氏 (算数・数学) 教授 及川 賢 氏 (外国語・英語) 聖学院大学 教授 熊谷 芳郎 氏 (国語)
16:05	総括	青山学院大学 教授 益川 弘如 氏
16:20	閉会行事、諸連絡	

アクションリサーチとは

「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、大学の専門家による指導・助言を通して授業改善を図りながら、効果的な指導のポイントを抽出し、その成果を広く県内の教員に広め共有・普及し、教員の指導力向上を図る取組

R6 対象教員8名
(国語 小2名、中2名、算数 小1名、
数学 中1名、外国語 小1名、中1名)
対象管理職2名 (小1名、中1名)

令和6年度 東部地区学力向上推進協議会

引き続き、児童生徒一人一人の
確かな学力の育成をお願いします



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」